

ニーム顆粒・EBaエコ・オスマック・ミネラル利用

根こぶセンチュウ対策

センチュウは、様々な作物に多大な被害をもたらします。センチュウ対策は、様々な病害虫対策の中でも、特に重要な対策といってもいいかもしれません。平成17年には、センチュウ対策といえは臭化メチルが主力でした。臭化メチルは、糸状菌や細菌による土壌病害のみならず、線虫、土壌害虫、雑草の種子にまでも有効な万能土壌消毒剤として使用されてきましたが、オゾン層破壊物質に指定されたことにより、現在では製造・使用が禁止されています。臭化メチルにかわる新しいセンチュウ対策として、ニーム顆粒・EBaエコ・ニューオスマック・天然ミネラルを利用した方法をご紹介します。

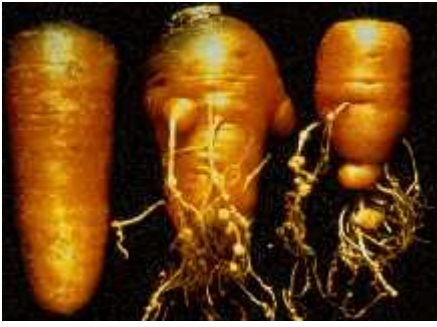
ネコブセンチュウの特徴

特徴① ネコブセンチュウが根に寄生すると特徴あるコブを作る。コブは数珠状に一列に連なったり、コブから小根を分枝したりする。根菜類などでは外見がコブ状を呈さないことが多い。

特徴② コブの中には成虫が入っている。

特徴③ 年3〜4回発生し、卵のう内の卵で越冬し、ふ化した幼虫は土壌中を移動して植物の根に達し、その細根の先端から内部に侵入する。

特徴④ 侵入した幼虫は、以後移動することなく虫体に次第に肥大しはじめ、球状に変わる。



ネコブセンチュウの被害

ネコブセンチュウ類に寄生されると、日中葉がしおれ、株全体の生育が悪くなる。株元近くの根を掘ってみると細い根にコブがついている。収穫終期になると根にコブが無数に付き、根全体がコブ状になっている。このコブが形成されることにより根の組織が壊され、水分や養分の吸収が悪くなり、ひどい場合には葉が黄変し枯れることもある。また、土質によっても被害程度が異なり粘質土壌よりも砂質土壌や火山灰土壌などの排水のよい土壌での被害が大きい。

ネコブセンチュウ類は種類によって寄主植物やコブの形、発生分布が異なっている。サツマイモネコブセンチュウは、落花生には寄生せず、コブは連続しており大きく温暖地が多い。キタネコブセンチュウはイネ科植物には寄生せず、コブは連続せず小さく、細根が出ており寒冷地に多い。アレナリアネコブセンチュウは、苺には寄生しない。

1. 苗からの対策

センチュウ対策で重要なポイントは、ほ場に前年度のセンチュウを持ち込まないことです。これは、非常に重要なことなのですが、ついつい忘れてしまう点かもしれません。まず、古いポットを完全に消毒するか、新しいものに交換してください。

これは、ポット及び作業する土のまわりにセンチュウがいることがあり、ポットの中でセンチュウが小さなコブを形成してしまうからです。センチュウは越冬しますので、前年度のポットなどに付着している場合が多々あります。



2. 土壌の対策

土壌の表面から10〜15センチ位にセンチュウは越冬して住み着いているため、この部分を中心に対策を行います。

対策① 全面的に完熟堆肥（牛の休肥等だとセンチュウの住処となってしまうため）と肥料・微量要素・微生物資材等を入れ、全面深耕（約30cm位）を行う。

対策② ニーム顆粒（20キロ）を全体に2袋散布してベットを作る。

対策③ ベットの上からニーム顆粒（20キロ）を1〜2袋散布して植えつける。

対策④ 灌水チューブで、天然ミネラル1（3000倍）・ニューオスマックエコ（土壌浸透剤）・EBaエコ（土壌団粒化）をいれ全面灌水する。水量は約3トン。灌水は植え付け前でもあとでもよし。

このときの使用量は1反歩あたり、天然ミネラル1（1本）、EBaエコ（10リットル）、ニューオスマックエコ（6本）が基準となる。



対策⑤ マルチをする方は、ベットの上に散布するニームを植穴に半分入れ、残りの半分を定植の後に穴の上に散布する。

ネコブセンチュウは7割以上改善され、数年引き続き対策を行う間にいなくなります。

この方法ですと、ニーム顆粒を散布することにより、ネキリムシやヨトウムシなどの土壌害虫も少なくなります。また、ハウスの内側（サイド）等に散布しておくと、コナジラミやアブラムシの発生も少なくなります。ニームの効果は約1ヶ月半から2ヶ月ほど持続しますので、ニームオイル（NewアクトLG）を上から散布すると、より効果的です。

